

口腔機能低下症

長崎県歯科医師会
医療情報委員会 委員

白石 一氏



口腔機能低下症とは？

老年歯科医学会では、口腔機能低下症とは「加齢だけでなく、疾患や、障害など様々な口腔の機能が複合的に低下している疾患」とされています。

それでは口腔の機能とは何でしょうか？代表的なものに以下のような機能が挙げられます。

- **咀嚼**：口の中に入れた食べ物を噛む機能
- **嚥下**：食べ物や飲み物、唾液などを飲み込む機能
- **構音**：舌や唇を使って言葉を発する機能
- **唾液の分泌**：食事や口腔の粘膜の保護、洗浄のために唾液を分泌する機能

これらが複雑に組み合わさって、社会の中で健康な生活を営むための原点ともいえる「食べる」、「話す」といった機能となります。加齢などの影響で、どれかひとつの機能がうまく働かなくなると徐々に他の機能にも影響が及ぶため注意が必要となります。

口腔機能低下症の検査

歯科医院にて口腔衛生状態不良、口腔乾燥、咬合力低下、舌口唇運動機能低下、低舌圧、咀嚼機能低下、嚥下機能低下の検査を行い、3項目以上該当する場合に口腔機能低下症と診断されます。（図1参照）

① 口腔衛生状態不良の検査

視診により舌苔付着度（舌の表面のよごれ）を評価します。

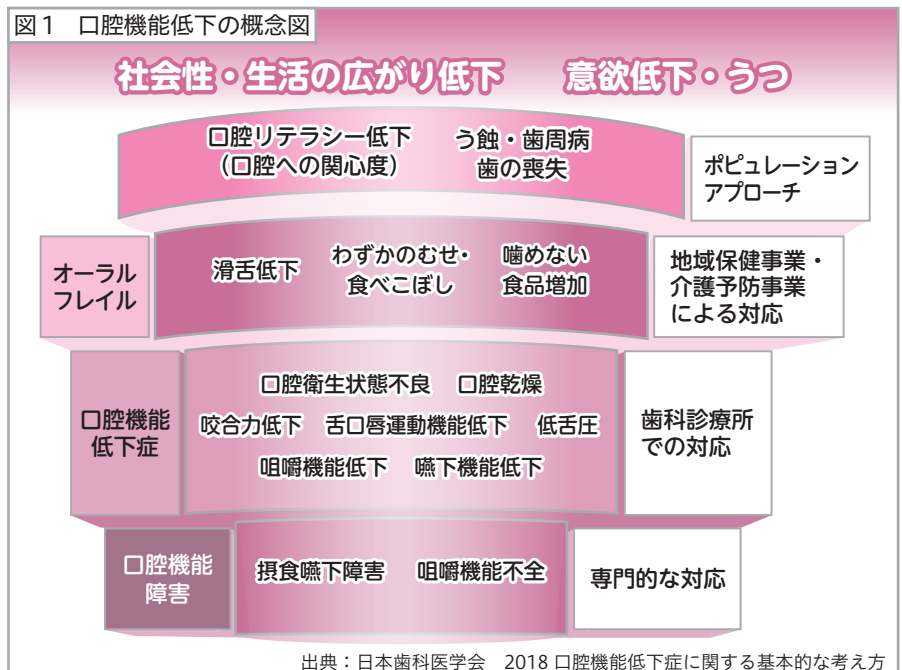
② 口腔乾燥の検査

口腔水分計により舌背中央の口腔粘膜湿潤度を計測、またはサクソテストによる唾液量の計測により評価します。

③ 咬合力低下の検査

感圧フィルムを用いて咬合力を計測して評価します。また残根と動揺度3の歯を除いて残存歯数20本未満の方は咬合力低下に該当します。

図1 口腔機能低下の概念図



出典：日本歯科医学会 2018 口腔機能低下症に関する基本的な考え方